

第16回APCTP日本委員会会合議事録案

日時：2018年1月11日（木）午前10時30分から午後0時30分まで

場所：理化学研究所和光キャンパス研究本館160号室

出席者（順不同、敬称略）：河本昇（北海道大学）、多田司（理化学研究所）

TV会議で参加；佐々木節（京大基研）、大西明（京大基研）、青木慎也（京大基研）

Skypeで参加；保坂淳（大阪大学RCNP）、押川正毅（東大物性研）、磯暁（KEK）、原田正康（名古屋大学）

オブザーバー；小形正男（東大理）

欠席者（順不同、敬称略）：菅原寛孝（沖縄科学技術大学院大学）、藤川和男（理化学研究所）、九後汰一郎（京都産業大学）、川村光（大阪大学）、川上則雄（京大理）、井岡邦仁（京大基研）、初田哲男（理化学研究所）、横山順一（東大ビッグバン宇宙国際研究センター）

1. 前回議事録承認

第15回APCTP日本委員会会合の議事録案が原案どおり承認された。

2. APCTP理事会報告

2017年11月に行われたAPCTP Board of Trustees Meetingについて、理事として出席した河本委員長から報告が行われた。

Wuhan Institute of Physics and Mathematics, Chinese Academy of Scienceが新たに（APCTPの規約には定められていない）member instituteのタイトルでAPCTPと協定を結び、メンバーシップフィーとして2,500ドルを受け取ったことに関し、北京代表の委員から問題提起があり、新たにmember instituteを加える場合はその国のmember entityの承認を得るようにすべきことを議論したとの報告があった。所長選考委員会委員長の Doochul KIM 氏から選考委員会に於いて Yunkyung BANG 氏が最多得票を得たとの報告を受け、BANG 氏の信任投票を行い次期所長として承認したことが報告された。また日本からの理事として理事会に加わっている河本委員長がAPCTPの理事長に選ばれたことが報告された。

ここで所長選考に関して所長選考行委員会委員を務めた横山委員（会合欠席）から、事前に選考の経緯を説明した文書が届けられたのでそれが読み上げられたが、それによると選考委員会の最終の会合では3名の候補者を順位を着けずに理事会に報告することで合意されていたとのことであった。

次回理事会及びGeneral Council meetingが3月9日（金）に予定されていることが報告された。

3. General Council報告

2017年11月に上記理事会に先立って行われたGeneral Councilについて代理で出席した河本委員長から報告があった。

特に北京にのmember instituteとmember entityが両方あることの問題が報告された。出席委員からmember instituteについての質問があり、河本委員長からは今回が初めて議論された概念である、との回答がなされた。これに対し、member instituteについて明確にルール化されないと混乱が広がるとの懸念が示され、APCTPできちんとポリシーを決めるべきとの意見が出された。これに対し、河本委員長からはそれらの懸念に対し、理事会で議論され、member instituteとなるためにはその国のmember entityの許可を必要とするというようにルールと上下構造を決めたとの回答があった（但しこの点はオーストラリアについては曖昧）。これに対しinstituteとentityが混ざっているのには違和感があるとの意見も出された。一方韓国政府の希望として一つの国に複数のinstituteだけが独立してあるのではなく、一国についてはどこか一箇所が責任を持って欲しいという要望があるため、現在の規約におけるmember entityの位置づけになっていることが説明された。ルールをはっきりさせたほうが良いという意見は今後理事会での話し合いに反映させる、との河本委員長からの回答があった。

4. 次期委員について

2018年3月31日で任期が満了となる委員について、選出母体の各コミュニティに後任の指名を依頼した結果が報告された。結果は以下のとおり：

物性グループ 小形正男氏（東大理）

原子核サブグループ 大西明氏（京大基研）※ 再任

理論天文学宇宙物理学懇談会 田中貴浩氏(京大 理)

素粒子論サブグループ 多田司氏（理研） ※ 再任

また研究機関選出委員で2018年3月31日に任期の満了を迎える委員については、各研究機関で重任含めて後任を選出して頂くようお願いした。

押川委員がプログラムコーディネータを務めていることからその状況が報告された。

監査委員について連絡する旨伝えられた

5. メンバーシップフィーの支払いについて（報告）

2017年のメンバーシップフィーについて、KEKへ送付された請求書に基づき、KEKからの支払の後、KEKから東大物性研、阪大RCNP、東大ビッグバンセンター、理研仁科加速器研究センター、京大基研へ均等割の請求書が送られ、支払いが完了したことが報告された。分担した研究機関に謝意が表された。

6. 新所長体制への要望

河本委員長から新所長が選出された今後のAPCTPに対していくつかの問題意識が提示された：

1、APCTPの位置づけをどうするか（TriesteのICTPのPeking版設立の動きなどを踏まえて、アジア地域での国際協力、共同利用について日本がどういう立場で臨むか）

2、APCTPの活用をどうするか（日本で行なっていた研究会を昨年9月にAPCTPで開催にした際、サポート体制の良さに対して、参加者の国際的な広がりには限定的であった）

3、APCTPのユニークさを如何に出していくか

これに対して今後スクール、ワークショップを行っていったらどうかという意見が出された。

またGeneral Councilが予期されない時に開催されると出席が難しいとの意見が出され、これに対しては河本委員長からすでにAPCTP側に伝えたとのことであった。次回理事会及びGeneral Council会合は人事承認の関係で例年より早い2018年3月9日となったことが報告された。

所長選考の経緯について、そもそも前所長が退任したのは国際的な所長を選ぶという理由であったはずの所、結局韓国からの所長が選出されたこと、また横山委員からの報告では所長選考委員会は上位3名の所長候補者を理事会に報告し、所長の選出を理事会に委ねるとの結論に達したにも関わらず、理事会での選考委員長の報告はそれとは異なっていたことに関して問題の提起がされた。これに対して河本委員長から所長選出に関しては韓国サイドでの非公式な動きなども含めた経緯が説明された。これに対し今後所長選考等においては経緯の説明を行うようにするなどの改善が提案された。また選考委員長の報告が食い違ったことについては、選考委員長に説明を求めるなどの対応が検討され、今後の対応を委員長に委ねることとなった。

以上